

## 防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業成果報告書

教育委員会名：八幡平市教育委員会

## (防災に関すること)

## I 想定される主な災害とモデル地域選定の理由

本市は岩手山と八幡平の山々を仰ぐ、雄大な自然に接する地域にあり、地熱発電施設や数多くの温泉があり、自然の恩恵を受けている。しかし、これらは、火山活動による災害と無縁ではない。平成 27 年における熊本県阿蘇山や鹿児島県桜島の火山活動の活発化のニュースを見たとき、改めて自然災害への備え、身を守る術などの必要性を感じずにはいられない。当地域でも過去には降灰による被害を受けた歴史もあり、伝承芸能である念仏剣舞の由縁にもなっている。

また、平成 25 年 8 月、集中豪雨等による松川上流での土砂崩れや、河川の氾濫による田畑の冠水等の被害も、児童生徒は目にしている。

そこで、寄木小学校、西根第一中学校を本市の防災スクールに指定して、家庭・地域と連携した防災教育の在り方、地域の人々の安全確保に寄与できる防災教育の在り方を探るべく事業を実施した。

## II 取組の概要

## (1) 事業の概要

## 【八幡平市立寄木小学校】

ア 外部講師を招き、「災害が起こったときの、学校及び教師の動き」や、「子どもたちに教えるための地域に関連のある自然災害」に関して学びを深める。

イ 減災を目的にした砂防堰堤・河川改修について専門家から学び、自然災害発生メカニズムや回避するための知識や能力を高める。

ウ 児童による地域の危険箇所を探る学習とその発表会を行い、災害に備える意識を高める。また、その活動をもとに「防災カルタ」を作成することにより、家庭や地域ぐるみの防災への意識を高める。

エ 「いわての復興教育副読本」を活用した防災学習計画の見直し、教材作成、授業実践により、防災に対する意識の啓発を図る。

## 【八幡平市立西根第一中学校】

ア 岩手山火山噴火への対応を踏まえ、全校・学年などを単位とした防災学習を通して、災害へ

の対処方法を身に付ける。

イ これに対応して、道徳や総合的な学習の時間などから、災害発生時には、自らの安全を守るだけでなく、ボランティア活動等に積極的に参加し、地域の人々の安全確保に寄与できるようにする。

## (2) 事業の取組内容

## 【八幡平市立寄木小学校】

ア 防災教育を推進していくための職員研修

(ア) 学校防災アドバイザー派遣事業を活用して、盛岡地方気象台水害対策気象官、火山防災官からの講義研修を実施。発災が懸念される自然災害について理解を深めた。

(イ) 東日本大震災時、大槌町内の学校に勤務していた元校長の講話から、非常変災時における初動態勢や心構えについて学んだ。

イ 自然災害発生メカニズム等の学習

学区内にある以下の施設や場所を見学し、自然災害発生メカニズム等を学んだ。

(ア) 砂防堰堤施設での体験学習（6年）

学区内にある小水無沢第一砂防堰堤とイーハトーブ火山局の見学を行った。

イーハトーブ火山局では、岩手県立大学の伊藤英之教授による「キッチン火山実験」や土砂流模型実験装置等で災害発生メカニズムについて、体験を通してわかりやすく学ぶことができた。



(イ) 焼走り溶岩流の見学（6年）

寄木小学校から約 9 km 離れたところには、1732 年に岩手山が噴火した際、溶岩流が流出した場所がある。その場所の見学を通して、噴火した際のエネルギーの大きさを感じることができた。

(ウ) 松川流水路の見学（3，4年）

松川流水路は、大雨の際に松川の氾濫を防ぐために造られた流水路である。氾濫を防ぐための知恵を学ぶことができた。

(エ) 後生掛自然研究路、松川地熱発電所の見学（4年）

「いわての復興教育副読本」で火山噴火について学んだ後、後生掛温泉にある自然研究路を散策した。地中から湯や蒸気が湧き出している様子を目の当たりにし、火山噴火のメカニズムをより理解することができた。

ウ 地域の危険箇所を探る学習と防災カルタの作成

(ア) 親子防災マップづくりと学習会

児童たちは、夏休みに発災時における自宅周辺の危険箇所や避難経路、避難場所、家族との連絡方法などを家庭で話し合い、地図にまとめた。夏休み明けには、地区ごとに集まって発表会を開き、地区全体の危険箇所について学び合った。



(イ) 防災カルタの作成

学んだことを想起しながら、3年生以上の児童たちが読み札と取り札を分担して作成した。カルタには、作成者全員の作品と名前が入るように配慮した。また、八幡平市の美しい自然に触れることをねらいに、取り札の裏には、



岩手山に生息する高山植物や市の花・鳥などを絵柄として印刷した。

作成したカルタは、家庭や地域に配付し、校内はもとより、学童保育の場や冬休みの子ども会行事で活用された。地域の方から、「子どもとともに防災知識を学ぶことができた。」という感想をいただくことができた。児童、家庭、地域の防災への関心の高まりが見られた。

エ 「いわての復興教育副読本」を活用した授業  
(ア) 副読本指導計画の見直し

指導計画は、A年度～C年度の3か年分を作成し、3年間で「いわての復興教育副読本」の内容を学習する計画とした。特長は、「そなえる」の内容を学年を越えて揃えたところである。兄弟姉妹が同じような内容を同じ時期に学習することで、家庭への協力を求めやすくなったり、教材研究を行いやすくなったりした。

(イ) 副読本を活用した教材作成

「いわての復興教育副読本」、防災教材DVD、気象庁ホームページを利用し、授業に合わせた独自の資料を作成した。

(ウ) 副読本を活用した授業実践

授業参観日に防災学習の授業を公開し、保護者に参観していただくことで、保護者の防災に対する意識の啓発を図った。

【八幡平市立西根第一中学校】

ア 防災教育を推進していくための職員研修

(ア) 岩手大学の森本晋也准教授を講師に「主体的に行動する態度を育む防災教育の在り方」についての講義を受けた。

(イ) 岩手大学地域防災研究センターの菊地義浩特任教授を講師に、避難所運営ゲームによる机上訓練を通じて、避難所運営及び防災教育の在り方について理解を深められたとともに、避難所運営を中心とした防災学習の進め方について検討し、共通理解を図ることができた。

イ 講義、講演による防災学習

(ア) 盛岡地方気象台の田中啓介気象官、越谷英樹気象官を講師に、八幡平市で起こる可能性のある自然災害、特に火山噴火のメカニズムと噴火によって起きる災害について、講演を通して理解を深めた。

- (イ) 実際に焼走り溶岩流に行き、自然観察員を講師として、溶岩噴出口や溶岩流を観察しながら、過去に起きた火山噴火による災害や地域に残る噴火の痕跡などについて学ぶことができた。



#### ウ 救命救急講習

八幡平市消防署員を講師に、AEDの使用と心肺蘇生法、三角巾を使った応急手当て、救急搬送の方法について実習を行い、緊急時の対処法について学習した。

#### エ 震災学習

東日本震災津波の被害と復興の状況について、震災学習列車乗車による被災地見学、宮古市立田老第一中学校生徒との交流活動、語り部、被災者を講師とした体験談視聴等を通して、震災について身をもって学んだ。

#### オ 避難所運営実習

避難場運営ゲームによる机上訓練を活かし、1・2年生を避難者に見立てて避難所運営を行い、ポリエチレン袋を使用した炊き出し実習、避難者の受け入れや傷病者の処置、支援物資の配布等を行い、災害への対処方法について真剣に考えた。



### III 取組の成果と課題

#### (1) 成果

##### 【八幡平市立寄木小学校】

- ア 親子防災マップづくりや防災カルタ遊びを家庭や地域で行うことで、防災に対する関心を高めることができた。
- イ 「いわての復興教育副読本」を活用し、自然災害が発生するメカニズムについて理解させたうえで、県学学習を行ったことにより、防災や減災についてより理解を深めることができた。
- ウ 防災マップを活用し、「起こりうる災害などの身近な危険」について話し合い、避難（場所、方法、経路、連絡方法等）について家族との約束を決めることができた。発災時は、家族の帰宅を待たずに、各々が避難し、命を守ることが大切であることを確認できた。
- エ カルタを作ったり、遊んだりする活動を通して、自然の美しさや地域のよさにも目を向けることができたとともに、災害から身を守るために進んで行動しようとする気持ちを育むことができた。

##### 【八幡平市立西根第一中学校】

- ア 生徒の気象災害に対する知識が深まり、災害に対する危機意識、地域防災に対する関心が高まった。
- イ 3年間を見通し、各学年の発達段階に応じた活動ができるようになった。また、それぞれの活動をどのように関連付けていけばよいのか、活動を通じてどのような力を育てていけばよいのかなどが明確になってきた。

#### (2) 課題

##### 【八幡平市立寄木小学校】

- ア 各教科や領域、生活安全や交通安全などとの関連を吟味し、有機的に結び付けた指導となるように検討していく必要がある。
- イ 授業やカルタ遊びを通して学んだことを活かした避難訓練を実施するなど、家庭や地域、関連機関と一層の連携を図っていく必要がある。

##### 【八幡平市立西根第一中学校】

- ア 各教科や領域等との関連、評価の観点、評価の方法を整理及び吟味しながら、活動を精査する。
- イ 地域と連携した取り組みの在り方を検討していく。